

キク

キク

菊を極める

見て得する 保存版

土と肥料

—暑さに負けない最適資材
全国各地で最高の評価をいただく—

バイオパワーとアミノ酸の力

- ・ 鮮やかな緑の大葉。太い幹となり、イキイキと力強い生育をする
- ・ 花の色がよくなり気品高い超巨大輪となる

～バラ・ラン・草花などにも抜群の効果～

—ウチダケミカルコーポレーション—

vol.

33

極めれば土はこうなる 菊づくりの究極の培養土

菊養土

ココがちがう!!

どこがちがうの… 生育に現れる効果

- 毛細根の発達がよく、根の働きが強く老化しない。抜群の根張りとなる。
- 芽先や根先など、生長点の細胞分裂が活発になり、力強い生長をします。
- 鮮やかな緑の大葉、太い幹となり、葉が巻かない、タレ下がらない、健全かつイキイキと生育する。
- 花の色・ツヤが良く、花の日持ちがよい、花型がよく気品ある大きな花が咲く。
- 莖葉を丈夫に育て、体質を強化し、免疫力を高め、病・害虫の被害を受けにくくします。

微生物の力、リン酸、鉄、腐植等によりパワーアップを図りました。

生育過程に最適化した培養土をお使いください。

定植用



20リットル入

有益微生物の働きで“根の活力を高める”“体質を強化する”“免疫力を高める”吸収した肥料分を効果的に利用する。巨大輪を咲かせる。充実した木づくりができる。

また、葉がタレ下がらない、チッ素過剰になりにくい。

徒長しにくい、ガッチリとした草姿となります。

育苗用



15リットル入

リン酸の強化、有益微生物の産出する栄養分により、“発根力を高める”“根の伸長を良くする”“活着を早める”“体質を強化する”定植後の生長力の強い、苗づくりができます。

増し土用



15リットル

リン酸とカリを強化し、チッ素分の消化を促し、チッ素残りを起きにくくし、円滑な開花を促します。

配合した菌体栄養分は、“花の着色肥大”を促し、“花の日持ちをよくし”気品ある巨大輪の期待ができます。

優秀花をめざす仕上げの培養土です。また、冬至芽の発生を良くし、“優良苗づくり”にも効果的です。

使用法についての注意

- ・ 菊養土を5～10倍に混ぜ物をし増量して使用する方がいます。この使い方では期待する結果が出ません。増量する場合は「プレミアム土の素」による培養土づくりがおすすめです。

当社肥料と組み合わせてお使い下さい

未発酵の乾燥肥料や、化学肥料を使用すると、期待する効果が発揮できない場合が多々あります。“土の荒廃化”が発生し、生育不良が起きる場合があります。

菊づくりに最適化したハイテク培養土

土の性格には「通気性・排水性」「保肥力」「保水力」など、基本的な性能があります。この性格は配合する材料や配合割合などにより、調整することができます。これらは、培養土の性格が決まる要素ですが、“菊を育てる真の力”は、土中に棲息する微生物の力によるところが非常に大きい。有益微生物をいかに増殖させるかが、培養土の善し悪しを決定する重要な要素となります。菊養土はこうした考えの基、完成した他に類のないハイテク培養土です。

通気性・排水性が良く、根ぐされの失敗が出にくい土

主要材料に自社製完熟腐葉土・改良赤玉土、軽石、クン炭、ゼオライト、調整剤を配合し、排水性と保水力を最適化しました。さらに腐葉土及び改良赤玉土に含まれる有益微生物をさらに増殖することで、団粒構造（土を粒々に固める）の形成を促し、通気性・排水性と保水力の相反する条件を高度に両立させ根張りの向上、根の活力向上を促し、根ぐされの起きにくい土にしました。

有益微生物の働きで体質及び免疫力を強化

配合された完熟腐葉土及び改良赤玉土には、有益微生物が高単位に含まれています。「菊養土」は、これらの微生物の増殖を促し、その働きの中から生まれるアミノ酸、ビタミン、ミネラル、酵素、植物ホルモン等の優れた栄養分を有効に使い、菊の体質強化、免疫力の強化、体内酵素の活性化を促し、健全で力強い生育を促す培養土にしました。

培養土中の肥料バランスを整え、健全生育を促す

菊づくりに於いて培養土に補給しておくべき肥料成分は、追肥では働きにくいリン酸や、不足しやすいカリ、鉄、カルシウム等です。中でもリン酸が不足すると、チッ素過剰の生育となり、葉が巻いたり、ドス黒くなったり、苗づくりで“成ってほしくないこと”が、普通に起こってしまいます。鉄が不足すれば、光合成が低下し、生育が悪くなります。肥料成分が不足した場合は、何らかの障害となって現れます。菊養土は不足しやすい成分を培養土に補給し、障害の発生を未然に防ぎ、旺盛な生育をする土としました。



プレミアム
PREMIUM

菊養土

土が決め手・土の力で育てる菊づくり

盆養・福助・ダルマ・スプレー菊等にお使い下さい

遠赤外線のパワーアップ
さらなるパワーアップ



- 遠赤外線の効果で土中有益微生物と根の動きを活発にし、毛細根の発達をよくし、根量豊かな根づくりとなります。
- 生育が早く充実した木づくりとなり、莖の肥大、花の色ツヤがよくなる、画期的な培養土です。

特徴

- 長期熟成することで有益微生物の増殖を促し、その働きで土を肥沃化し、土本来の力を高め、育てる力の強い生きた土としました。
- ネフレッシュを配合し、遠赤外線の活性作用できわめて細根の発達がよく、活力の高い根づくりとなります。
- 赤玉土を廃し山土を配合することで、リン酸の働きを高めました。そのため、チッ素過剰になりにくく、健全な生育を促します。
- 保水剤（ウォータージェル）を配合し、保水力と通気性を両立させ、根の活力を高め、肥料や水分の吸収を良くし、旺盛な生育を促します。

生育に現れる効果

- 根毛の発達が良く根張り抜群となる。
- チッ素過剰になりにくく、葉の巻き込みや葉色が黒くなりにくい。
- 葉肉の厚い鮮やかな緑の大葉となる。
- 花の色・ツヤがよく、気品高い大輪となる。

■ 主要材料

- 腐葉土 ● 山土(又は改良赤玉土) ● ゼオライト ● 軽石
- くん炭 ● 腐食資材 ● 鉄 ● ミネラル
- 有益微生物(バイオゲン) ● 有機リン酸 ● ネフレッシュ 他

20リットル

土づくりは菊づくり 基本中の“基本” …… 暑さ寒さ天候不順に負けない土づくり

菊づくりで最も大切なものは“土”です。
 生長する為の栄養分は空気と光を除けばすべて土から吸収しています。
 人の力で変えることのできるものは土のみです。
 よって菊づくりを成功させるか、失敗に終わるかは、土づくりによるところが大きいと言えます。
 近年の夏の暑さは厳しいものがあり、全国的に「暑さによる生育不良」が発生しています。
 おかげさまで当社の菊養土は失敗例は少なく、大多数の愛好家の方々はよくできています。
 中には今までの菊づくりで“最高の出来”という方も少なからずいます。
 よくある例は、当社培養土に他社の培養土を多量に混

ぜ合わせ、全く違った培養土になっている場合や、未発酵の有機肥料及び化学肥料を使い、培養土の荒廃化を招き、本来の性能を大幅に落としている場合です。
 夏の暑さの厳しい現在の菊づくりでは“昔ながらの土づくり”ではもはや通用なくなっています。
“土がダメならすべてダメ・肥料がダメでもすべてダメ”と考える必要があります。
 現在発売されている菊資材は理論的に煮詰めた資材は見当たりません。
 当社資材は理論に基づき名人先生方の経験を生かし、さらに30年を超える当社の蓄積した技術を基に成立している資材です。
 自信を持っておすすめできる資材ばかりです。

I. 腐葉土は培養土づくりの要 …… 腐葉土づくりの失敗はあとではとりもどせない

腐葉土は培養土の中で最も大きな割合を占めています。「枯れる、根ぐされなど」大きな失敗を起こす原因となるのが腐葉土です。
 良く聞く話で、粗い腐葉土は水ハケが良く根ぐされが出ないと考えてる方も少なからずいると思います。
 しかしながら粗い腐葉土は未熟であり植えた後に、鉢の中で発酵が進みます。
 そこで問題となるのが、発酵にともない土中に放出されるガスやタンニンなど生育阻害物質です。
 水ハケが良く根張りが良くなると考えていたことが、逆に根毛など根に障害を与え、健全生育の阻害要因となってしまいます。
 根毛部分に損傷を受けると、チッ素分は吸収ができて、リン酸やカリの吸収が悪くなってしまいます。
 その結果、土にあっても吸えないリン酸となり、葉っぱ

がタレ下がったり、巻いたり、チッ素過剰の生育をすることになります。
 腐葉土は細かくても、水ハケを悪くすることはありません。
 水ハケを良くしたい場合は、軽石・くん炭・パーライトなどで調整することが重要です。
 粗い腐葉土と粗大物を配合した培養土は、団粒構造の形成はできず、生育の良い土には成り得ません。
 米ヌカや油カス等、チッ素を含んだものを多量に添加する場合がありますが、チッ素分を多く含む腐葉土ができてしまいます。
 この腐葉土が培養土に配合されると、チッ素分の多い培養土ができてしまい、根毛の発達の悪く、「根いたみ」の原因となり、健全な生育は望めません。
 腐葉土づくりに配合しなければならない肥料成分は、リン酸・カリ・ミネラル類です。



腐葉土の切り返し作業中



赤玉土の改良中

① 腐葉土づくりに酸欠は“大敵”
 空気を充分に入れる。
 温度も上がりすぎないようにする。

② 赤玉土の改良が進んだことで、
 微生物の増殖が活発になり、
 菌糸が伸びている。

Ⅱ. 赤玉土の改良はリン酸の効きを高め、チッ素過剰を起きにくくする

菊栽培をする上で大きな問題のひとつに赤玉土の使用があります。

赤玉土は火山灰土である為に、有機物を含まないやせた酸性土です。元々、植物の栽培には適さない土と言われてきた土です。

どこでも購入でき手軽に使える利便性により普及したと考えられます。しかし、そのまま培養土に配合すると赤玉土に含まれる鉄分やアルミニウムが与えたリン酸と結合し、リン酸鉄やリン酸アルミニウムに変化し、根が吸うことができなくなってしまいます。

そこで菊づくりで最も大きな問題となるリン酸不足が発生します。「葉がタレ下がる、葉が巻き込む、葉の色が黒くなる」などチッ素過剰の症状が現れ、多くの愛好家の皆様が肥料調整に大変な思いをしています。

赤玉土はこの欠陥を改善した上で、培養土に配合する考え方が定着してまいりました。

赤玉土の改良は有機物を含ませ、包み込むことでリン酸と赤玉土を直接接触させないことで結合を防ぎ、リン酸の結合を緩和することにあります。また赤玉土改良時に配合するリン酸は有機物に包んだ型となる為、土に固定されないリン酸に改良することができます。

さらに、赤玉土の改良は有益微生物の働きを応用する為、改良後の赤玉土は有益微生物とその産出栄養分が蓄積されています。健全で力強くイキイキと生育をし、優秀花の期待のもてる培養土にでき上がるのは、これが理由です。

※赤玉土を改良する為の資材は、「プレミアム土の素」です。

Ⅲ. 土の力は微生物の力 …… 通気性、排水力、保肥力に優れた生育抜群の土づくり

培養土の通気性は粗大物を配合して作るものではありません。

粗大物を配合すれば保水力は低下してしまいます。

植物の生育には、通気性も大切ですが、水分も同様に重要です。

この相反する条件を両立する為には、物理的な考え方では達成することはできません。

この条件を両立させる為には、土の生物学的な条件である微生物の力による団粒構造の形成が必要となります。

団粒構造の形成は、土中の微細な土の粒子同志が電気的や機械的な力によりくっつきあい、腐食酸や有機物を取り込みながら、微生物の分泌物が接着剤の働きをし、団粒を作ります。

さらに、その団粒がくり返しくっつきあって、団粒構造

が形成されます。

団粒の中には肥料や水をとり込み、団粒と団粒のスキ間で空気の流れや排水性を保ちます。

こうしてできた培養土は毛細管の作用が強く働き、水分の多い所から少ない所に水が自由に移動できる為、部分的に水分の停滞することが起きにくく、酸欠を起こすことがない為、根ぐされが起きにくい土となります。

しかも根の働きが強く、活力高い根づくりとなり、体質も強くなる為、気候の変動や病害虫に対する対応力の強い、極めて生育の良い理想的な土となります。

この培養土づくりの主役となっているのが有益微生物です。

有益微生物を増殖させ、培養土を活性化することは、優秀花を咲かせることに直結することになります。

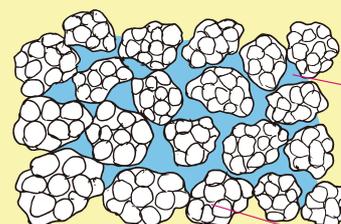


鉢上げ時の毛細根の発達

- ③ 根毛が発達し、水分や栄養分の吸収が抜群の根づくり。

団粒構造は、根ぐされの起きない土

団粒の大きな隙間は、空気の流通や排水性を高めます。団粒の中には、水分や肥料を取り込み保持します。この様にして、相反する条件を両立させています。



大きな隙間
水はけ、通気性を
良くする

団粒の中は
水や肥料を保持

団粒構造

立枯れがでない



15リットル入

— 使用できる目安 —

7.5センチポットで70~80ポット分
育苗箱(さし芽箱)で2~3箱分

サシ穂の水上げに
「あつさしらす」
添加で生長力アップ



発根が早い、根量が多い、生長力抜群の苗づくりができる

特徴

- 主要材料に鹿沼土、バーミキュライト、くん炭等を配合しました。さらに高吸水性ポリマー「ウォーターゲル」と有益微生物群を配合しました。
- 有益微生物の産出するオーキシン、サイトカイニン、ジベレリン等植物ホルモンが発根を早め、根量が豊かで生長力旺盛な健苗をつくる。
- 配合した保水剤、ウォーターゲルは、水分を安定させ発根を早めます。
- 配合した焼成骨粉、鉄分は発根後のリン酸、カルシウム、鉄分、ミネラル分を効果的に補給し、水や栄養分を運ぶパイプや体質を強化し、生長力の強い苗づくりに効果的に働きます。

生育に現れる効果

- 発根が早い
- 根量が多く切口近くだけでなく2~3センチ上まで発根する
- 根毛の発達が良い
- 鉢上げ後の生育抜群の苗となる

使い方のポイント

- 使用する5~7日前に十分に水分を与え、なじませておきます。
(※通気性を保つことが重要、育苗箱やドノウ袋がおすすめ)

※「さし芽用土」の使い方 マニュアルあります。



福助 7.5センチポットにサシ芽



7.5センチポットから福助鉢上げ

ハイテク資材

…サシ芽用土自作派におすすめ

サシ芽及び育苗用



500g入

菌根菌とは土中に菌糸を伸ばし、根の届かない土中から、リン酸、ミネラル、水分などを集めて根に供給します。
菌根菌の必要な栄養分は根の内部に入り込み、根から供給を受け、根と「持ちつ持たれつ」の共生関係を作る菌です。

キクにキンコン 菌根菌と有益微生物の力

- 菌根菌と細菌、放線菌、酵母など有益微生物を配合してあります。
- サシ芽の発根促進、根量の増加、病原菌を抑え、立枯れ防止、歩止まりなどが向上します。
- 菌根菌と有益微生物の効果で病害虫に対する抵抗性が増します。また高温時、乾燥時、過湿など環境変化に対する耐性が高まります。リン酸・ミネラル等の吸収が高まり、体内酵素の活性化を促し、体質強化及び肥料の吸収が増すなど健全生育をします。

使い方

- サシ芽用土1リットルに対し、15~20グラムを平均に混合する。
(混入後3日以内にサシ芽をして下さい)
- サシ芽ポット上げ時に株当たり小サジ1杯(3~4グラム)を根にまぶす。又は培養土に根が接するように施し植え付けます。
- ポット・鉢上げ用土に混ぜる場合は1リットルに対し15~20グラムを平均に混合します。

土つくりの資材 …こだわり派の土つくり

なぜ赤玉土の改良が必要か

菊つくりをする上で避けて通れないのが“赤玉土の改良”です。

赤玉土は“有機物を含まないヤセた酸性土”です。

リン酸の吸着固定が激しく、花つくりにも最も重要なリン酸の効かない土です。

本来、植物の栽培に適した土とは言えません。

土の性格上、リン酸不足が起きやすく「葉が巻き込む」「葉が黒くなる」「幹が太らない」「生育が悪い」「花ぐされ

が出やすい]など大きな問題をかかえた土です。

そこで赤玉土は改良し欠陥を取り除いて培養土に配合するという考え方が定着してきました。

“赤玉土の改良”は土つくりの出発点です。その上にごのような性質を与えるかを考えていく必要があります。

「プレミアム土の素」は当社の菊資材つくり30年の技術の集大成です。間違いなくお使いいただければ間違いなく最高の菊つくりができる資材です。



6.5kg入

プレミアム土の素 赤玉土の改良・培養土の強化・古土再生に見違える効果

- ・有益微生物の働きと有機リン酸の相乗効果で極上の土つくりができる。
- ・健全生育には欠かせないリン酸・鉄・マグネシウム・ミネラル分等を配合。力強い生育を促します。

- 赤玉土を肥沃化しリン酸の効く土に改善し根張りをよくする。
- 培養土中の有益微生物を増殖し、生きた土に改善し、根の活力向上と根張りをよくし、健全生育を促す。
- 有益微生物の働きと有機リン酸等の相乗効果で古土を効果的に再生します。

赤玉土の改良 …… 1袋で9号鉢25～30鉢分

赤玉土は有機物を含まないヤセた酸性土でリン酸吸収率が高くリン酸が効かない為、植物の栽培には適さない土です。

この欠陥を改善し「根張りが悪い」「葉が巻く」「葉色が黒くなる」「葉肉がつかない」「花が乱れる」などリン酸不足の根本的な原因を取り除くことができます。

培養土の改善強化

自家製培養土のパワーアップに使用します。

有益微生物、有機リン酸、その他有効な栄養分を効果的に補給し生きた培養土に改善します。

「根張の向上」「リン酸の補給によるチッ素過剰症」を未然に防ぎ健全生育を促します。

古土の再生 …… 古土約100リットルに使えます。

菊は連作障害が起きると生育がいちじるしく悪くなります。培養土を繰り返し使うことはできません。

プレミアム土の素は連作障害を改善し土をよみがえらせ、再使用を可能にします。

※「土の素」とその使い方、「赤玉土」の改良方法 マニュアルあります。



拡大図



赤玉土15リットル×5袋分75リットルを改良する経過を記録したものです。30年3月2日の開始です。



15リットル入

改良赤玉土 そのまま培養土に配合しお使いください。

赤玉土を「プレミアム土の素」で改良した完成品です。

完成品もお使いください

培養土を調整する際は

改良赤玉土の使い方 別紙「配合表」を目安にお使いください。



菊づくり専用

腐葉土

菊・バラ・草花等花づくりに最適化

リン酸等必要な成分は十分に添加することで



50リットル入

一般に売られているモノとは別物です!!



- 「花つきがよくなる」
- 「花の色ツヤがよくなる」
- 「花の肥大がよくなる」
- 「花形がよくなる」

ように最適化しました。

- この腐葉土はリン酸、カルシウムなどミネラル類を配合し、さらに微生物の増殖と活動を活発にし、アミノ酸、ビタミン、各種酵素、生長ホルモン等優れた栄養分の蓄積を促し、イキイキと健全生育をする土づくりができるようにしました。
- カルシウムは花ぐされの予防や芽先の突然の枯れ込みを起きにくくします。
- 鉄分は葉緑素の生成を高め、光合成を活発にし生長力を高めます。

理詰めの腐葉土です。一般商品とは全くの別物です!!

腐葉土はこうして作られます

腐葉土は下記の工程により作ります。全ての作業は屋根の下で行い、管理下のもとで発酵します。パーク入り腐葉土とか林で集めた枯れ葉を自然発酵などと称して販売している腐葉土モドキとは比較にならない高品質の腐葉土です。



石、枝、除去

水分調整

米ヌカ発酵剤及びリン酸他混入

積み込み切り返し

設備 作業場 700m²

落葉ストックヤード 400m³

発酵槽 110m³× 5 基

菊の腐葉土づくりに最適



2kg入

腐葉土自作派におすすめ

腐葉源

リン酸強化 花づくり専用発酵剤

- 落葉、カヤ等、有機物を腐熟分解する力の強い、糸状菌、酵母、放線菌、細菌類、十数種類を配合してあります。
- 有機物の腐熟分解過程で発生する、有害ガスを未然に防ぎ、生育阻害物質を分解除去し、完熟腐葉土や堆肥

づくりができます。

- 有機リン酸、カルシウム、ビタミン等、腐葉土に不足する栄養分を補強し、生育の良い腐葉土や堆肥づくりが出来ます。

使い方

- 落葉、踏み込んで約 500 リットルに 1 袋の割合で使えます。米ヌカ 7～10 リットルと混合しお使い下さい。

※「腐葉土の作り方」マニュアルあります。

培養土のリン酸補給に最適



1kg入
10kg入

腐葉土・培養土自作派におすすめ

バットグアノ

培養土のリン酸補給に! 腐葉土づくりに添加が効果的

- 水掛けで流亡しない元肥用の有機リン酸です。土に吸着固定されにくく、効率よく穏やかに長く効きます。
- 主成分はリン酸 (20%以上) の他、カリ (1%以上)、カルシウム、マグ

ネシウム、ケイサン、微量元素等です。

- 花の着色肥大、花ぐされ予防、根張りの向上、充実した木づくりに効果的です。

使い方

- 9号鉢 1鉢当たり (10リットル) 50～100グラムでお使い下さい。腐葉土づくりでの添加が最も効率の良い方法です。培養土に添加して2～3週間積み込みお使い下さい。

価格そのまま、軽量化で5割増量
遠赤外線
さらなる根張



1 kg入



写真はスプレー菊です。大菊も同じ結果です。

ネフレッシュ

根張り抜群 4号鉢で5号鉢の根ができる

- 特殊セラミックスから放出される遠赤外線による活性効果を応用した画期的商品です。(微弱エネルギーによる活性効果)
- 遠赤外線の活性作用により発根が早まる・根量が増える・根毛の発達が良くなる・根の伸長がよくなるなど肥料や水分の吸収がよく充実した木つくりができる。
- また土中水分のクラスター(水分子のかたまり)が細分化され、根から吸収しやすく代謝が早まり、旺盛な生育をします。
- クラスターの細分化された水は、培養土へのしみ込みがよく、また排水もよくなる。肥料は水に溶け、根から吸われる為肥料の吸収が高まり生育が早まります。

生育に現れる効果

- 発根が早まり、根の伸長が良く、根量が増えます。
- 根毛の発達が良く、水や肥料の吸収が高まります。特にリン酸とカリの吸収がよく、肥料残りが起きにくくなります。
- 生育が早まり、茎葉の肥大が期待できます。
- 増し土時の使用により上根の発生がよくなる。冬至芽の発生もよくなる。

使い方

・培養土1リットルあたりに

- サシ芽用土 …………… 20～30グラム
- 3.5号鉢～4号鉢(小鉢又はポット)…………… 20～30グラム
- 5～6号鉢 …………… 20～30グラム
- 定植時(9号～10号鉢) …………… 10～20グラム
- 増し土時(幹のまわりを中心に表土に散布) …… 20～30グラム

を目安に平均に混入して使用します。

高機能保水剤



450g入

ウォーターゲル

生育に水は不可欠、土中水分を安定させ生育促進



土中に点在し、ゲル状になり水を持つ為、通気性を悪くすることはありません。

- ウォーターゲルは高吸水性ポリマーを利用した土壌保水剤です。土中で吸水と放水をくり返しなが、最適な水分に保ちます。
- ウォーターゲルは1gで最大50～100ccの水分を保つことができます。実際に使用する場合は土の圧力が加わる為それぞれ以下となります。
- 根毛の発達が良くなり、肥料や水の吸収が高まり、生育が良くなります。
- 水掛け回数を減らすことができ、灌水の省力化が図れます。
- サシ芽用土、育苗用土、定植用土、増し土、その他、バラの用土、草花用土、花壇、庭などにも使用できます。

使い方

- ・培養土1リットル当り、3～5gを平均に混入して下さい。
- ・花壇、庭は1㎡当り100g(1g/リットル)の割合で平均に混入して下さい。



吸水前の状態



吸水後の状態

効を極める菊の肥料

植物が自前で作れる栄養分は、光合成により作られる炭水化物のみです。

その他のチッ素、リン酸、カリ、カルシウム、微量元素など、必要な栄養分は土から吸っています。

特に鉢で作る菊づくりでは、根の張る空間に限られる為、肥料の性能が、生長に大きな影響を及ぼします。

肥料には、有機肥料と化学肥料があり、さらに固形肥料と液体肥料に分類されます。

菊づくりにおいては、有機肥料を使わなければ、良い花は咲かないと言われています。



南砺菊まつりより

乾燥肥料

…有機質肥料原料に発酵したもの
良い花を咲かせる為には、必要不可欠

有機肥料であっても発酵した肥料と未発酵の肥料とでは生育に及ぼす効果は全く違った結果をもたらします。

未発酵の有機肥料を施せば、鉢の中でガスの発生をとめないながら発酵が進みます。

この発酵ガスにより「根いたみや根ぐされ」を発生する確率は極めて大きい。

一旦発生すると挽回不可能な生育不良に陥る場合がほとんどです。

これが未発酵有機肥料の正体であり、菊づくり失敗の最大の原因のひとつです。

この問題を回避するには、有機肥料は発酵した後に施すことが必要不可欠です。

菊づくりでは伝統的に「発酵した有機肥料」を乾燥肥料として使用してきました。



発酵は多種多様の微生物が入れ変わり、世代交代をしながら進みます。

その為に原料そのものに含まれている肥料分と微生物の生み出した栄養分が含まれています。

この栄養分は微生物特有の栄養分であり、

アミノ酸、ビタミン、ミネラル、酵素、生長ホルモン、有機酸等です。

この栄養分こそが発酵肥料の最大の特徴です。

だから「暑さ、寒さ」、「乾燥・過湿」、「日照不足」、「天候不順」など環境の悪い条件でも安定した栽培ができるわけです。

さらに、培養土に働きかけ、通気性、排水性、保水力、保肥力など土の物理性の改善効果が極めて高く、根張の向上や根の活力向上など、健全で旺盛な生長を支える等、広範囲に高い効果が得られます。

これは、旧来の発酵不完全な乾燥肥料や化学肥料を乾燥肥料としている商品、また、ただの有機肥料を乾燥肥料として位置づけて販売している商品とは品質も効果も全くの別物であり、同じ肥料として考えることは間違いです。

発酵した有機肥料＝乾燥肥料の特徴

- 発酵した有機肥料のチッ素分は、アミノ酸を多量に含み、リン酸、カリも根が吸いやすい形になっている為、効率よく効き目が早くイキイキと力強い生育をします。
- 効き目が平均に現れる為に、チッ素過剰や肥料切れが起きにくく安定した効き目が得られます。
(化学肥料のように肥焼けによる根いたみは起きにくい)
- ビタミン・ミネラル・アミノ酸・酵素・ホルモン・有機酸などが多く含まれ、体質を強化し、健全な生育を促し、耐病性・暑さなど天候不順にも影響を受けにくくなります。

良質な乾燥肥料及びアミノ酸液肥の効果

- 効き目が早く肥料残りが出にくい。冷夏、日照不足、天候不順などでも安定した効き目が得られる。
- 根いたみ、根ぐされが起きにくく、発根力が高まり、細根の発達がよくなる。
- 根の活力が高まり、肥料を吸う力が強く、老化しにくい根つくりができる。

- 体質が強化され、生長力が旺盛で充実した木つくりとなる。さらに病害虫の被害を受けにくくなる。
- 鮮やかな緑の大葉、太い幹となる。葉が巻き込んだりドス黒くならない、イキイキとした葉となる。
- 花弁の伸びが良く大きな花となる。花弁の色ツヤがよく、しなやかな花弁となり、弁組がよくなる。花直しがしやすい花となる。

液体肥料

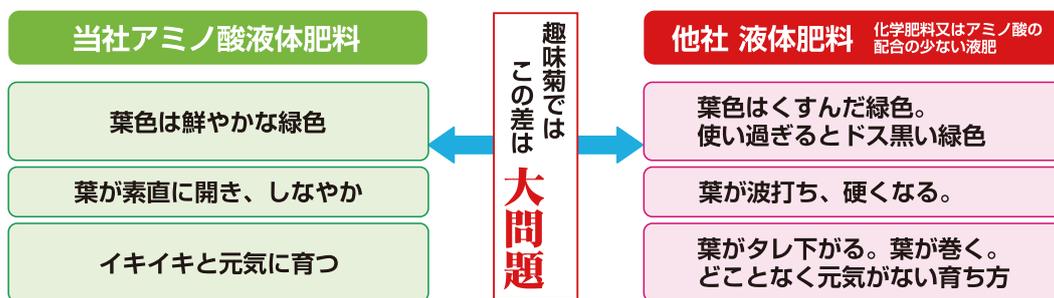
…アミノ酸を多く含むほど結果が良く使いやすい

液体肥料にも有機質肥料と化学肥料があります。
ほとんどの商品は化学肥料を水に溶かしたものです。
有機質部分はアミノ酸を配合してあるのが一般的です。
問題は配合割合で、わずかな量を配合して、“アミノ酸配合”と、堂々と表示しています。
実際に使用してみると、“アミノ酸の効果”は見えないのが、ほとんどです。
当社の液体肥料は、“アミノ酸の効果”が一目で確認できる十分な量を配合してあります。

“みらい”は、チッ素成分のすべてがアミノ酸です。
他に類のない液肥です。
“アミノP.K”、“アミノ液肥555”については、アミノ酸の配合割合は50%を越し別格の液肥に仕上がっています。
液肥のアミノ酸の含有量は、菊の出来映え＝品質にダイレクトに現れてきます。
当社の液体肥料と他社との比較は下記のような違いが現れます。

ひと目でわかる他社肥料との生育の差

この差は菊づくり技術の問題ではなく、肥料の力の差であり技術ではカバーできない。



この差は、花の色・花のツヤ・花型など、花の日持ちなど花の品質にそのまま現れます。
花の良し悪しを問題とする趣味の菊では、決定的な差と言えます。

※乾燥肥料も有機主体の発酵肥料と化学肥料中心の肥料とでは同様の結果となって現れます。

比べてみればこんなに違う

有機肥料中心の当社肥料を使用



「葉は素直に開いている」

にぎりのない緑色の葉となりしなやかで素直な葉となる。

化学肥料中心の他社肥料を使用



「葉が巻く、葉のフチが波打つ、硬くなる」

化成としてはきれいな緑ですが葉は全体に硬く全体に波打っている。特に葉先は硬く平に伸ばそうとすると割れる。

大菊も同様 スプレー菊の例

乾燥肥料

…生育過程に合わせた使い方で効きめ倍増

サシ芽のポット上げ
5号鉢上げに



2.5kg入 チッ素=2 リン酸=12
カリ=8 マグネシウム=4



リン酸の効いた苗づくり

粒状

リンのちから

生長力の強い健苗づくりに

育苗期に良質なリン酸をタップリと吸わせることで生育終盤までリン酸を吸収する強い体質ができます。

リン酸の効果が高まるとチッ素の吸収や利用効率が高まり、少なめのチッ素で生育がよく充実した木づくりができます。

その結果肥料残りが起きにくく、葉が巻いたり花の乱れなどが出にくく徒長しないなど健全生育が期待できます。

特徴

- 発酵熟成することできわめて吸収しやすいリン酸となっています。
- 発酵過程で微生物が産出するアミノ酸、ビタミン、ミネラル酵素、植物ホルモン等の効果で体質が強化され、生長力の強い苗づくりができます。
- リン酸の効果で細根の発達した充実した根張りとなり、肥料や水の吸収力の強い根づくりとなります。

使い方

サシ芽から最初に鉢上げする時にお使い下さい。

※使用量は袋の裏面をご覧ください。

- 大菊、スプレー菊、小菊、等の苗づくり
- 大菊管物、スプレー菊、小菊は生長期の肥料としても使えます。

盆養厚物づくりに最適



5kg入 チッ素-リン酸-カリ
成分 6 - 6 - 5

粉状

菊養源 6-6-5

定植後の生長期用に

- 原料に肉カス、魚カスなど、さらに大豆カスなど高たんぱくな厳選された高級有機質原料を使用し、精密な管理により発酵熟成した肥料です。
- 発酵の工程による微生物が産出する特有の栄養分が蓄積されている為、健全で力強い生育をします。
- 施肥とともに培養土に持ち込まれる微生物の働きにより団粒構造が形成され、通気性や排水性、保水力や保肥力などを維持改善し、根の活力を高め、肥料の吸収をよくし、旺盛な生育を促します。
- 肥料の効きめが早く、肥切れが良い、肥料残りの起きにくい肥料です。
- 鮮やかな緑の大葉、素直な葉、太い幹、気品高い菊づくりができます。

※ 盆養、切花、ダルマ、福助などの定植後におすすめです。

使い方

別紙「こうすればよい花が咲く」の使い方をご参照下さい。

※使用量は袋の裏面をご覧ください。

管物又はチッ素控えめの生育用



5kg入 チッ素-リン酸-カリ
成分 3 - 7 - 6

粉状

菊養源 3-7-6

チッ素ひかえめの生長期用に

- 使用原料及び製法は菊養源 6 - 6 - 5 と同様です。
チッ素をひかえリン酸とカリを多くすることでチッ素過剰になりにくく使いやすくなっています。
- 芽先や根先など生長点の細胞分裂を活発にし生長力を高めました。
また、栄養分や水分を運ぶパイプを太く丈夫にし、鉢上げ後の生長力も高めています。

※ 管物、スプレー菊、培養土のチッ素分が多めの時の追肥、止め肥、等々におすすめです。

使い方

別紙「こうすればよい花が咲く」の使い方をご参照下さい。

※使用量は袋の裏面をご覧ください。



オールマイティ

効きめ 使いやすさ倍増



2.5kg入

チッ素-リン酸-カリ-マグネシウム
成分 4-7-4-1



鮮やかな緑で素直な葉っぱに育つ

粒状

名彩輝(めいさいき)

みがきをかけた菊づくり伝統的肥料

チッ素ひかえめ、リン酸成分を高め使いやすさ倍増
チッ素過剰になりにくく健全な生育をする

特徴及び使い方

- 厳選した植物有機及び動物有機を合理的に配合し、発酵熟成した伝統的乾燥肥料です。
- チッ素成分のすべてを有機物より取得している為、極めて吸収しやすく効率よく効く肥料です。
- 発酵過程で蓄積された、酵素・アミノ酸・ビタミン・ミネラル・生長ホルモン等、発酵肥料特有の栄養分が植物に活力を与え、肥料の吸収を助成し、イキイキと力強い生育を促します。

生育に現れる効果

- 緩やかな効きめで、鮮やかな緑の大葉、太い幹力強い生育を促します。
- 花の色、花の日持ちが良く雄大で気品高い花となります。

使い方

	育苗(小鉢)	定植後
福助づくり(5号)	鉢上げ3~5日後 3~5g	10~15g 10~15日間隔
ダルマづくり(7号)	鉢上げ3~5日後 5~10g	20~30g 10~15日間隔
盆養三本立(9号)	鉢上げ3~5日後 10~15g	40~50g 15日間隔

※ 小鉢は福助9~10センチポット、ダルマ4~5号鉢、盆養は5号鉢使用の例です。

※ 使用量は目安です。適宜調整して下さい。

ハイテク資材

…土を元気にすることは根を元気にすること

培養土のパワーアップに



1kg入

土の中は微生物の世界
増殖が活発になれば
生育の勢いが増す!!

バイオゲン

培養土づくりの基となる有益微生物の種菌

- バイオゲンは酵母、放線菌、細菌類など 80 種類以上の有益微生物を高単位にバランスよく配合してあります。
- 培養土に配合すると肥料の分解が円滑になり、効率よく根が吸える為、生育が早まると同時に肥料残りが起きにくくなります。
- 土中に増殖した微生物はアミノ酸、ビタミン、ミネラル、酵素、植物ホルモン等、優れた栄養分を放出し、発根力を高め、根張りを良くし、体質の強化、花の色・ツヤ向上・花の日持ちをよくしたり、花の肥大に効果的に働きます。
- 通気性・排水性・保水力・保肥力など土の物理性を改善し、土の団粒化を図り、根の働きを活発にします。

使い方

- ・培養土 100リットルに対し 300~400グラム平均を混入し 3~4週間、積み込み、熟成させ使用します。

暑さによる培養土の活力低下の回復…こんな使い方もあります。

定植後 14~15日間隔で 10~15グラム表土バラまき

菊苗の購入は

イノチオ精興園(株) 広島県福山市芦田町福田 1270
TEL (084) 950-0151
FAX (084) 950-0196

スプレー菊購入は

南砺市園芸植物園 富山県南砺市柴田屋 128
TEL (0763) 22-8711
FAX (0763) 22-8741

液体肥料

みらい

チッ素分100%アミノ酸の超速効性肥料

効きを極める
猛暑にも極めて効果的



500g入

チッ素-リン酸-カリ
成分 2.5 - 4 - 2

サシ芽・福助つくり・ダルマつくり・益養・生育遅れの挽回・追い込み・花肥などに抜群の効果

- 生育の姿が一変する 超高肥効の比類なき高性能アミノ酸液肥です。
- 吸収が早く、極めて円滑に消化される為、飛躍的に生育が早くなる。
- 夏の猛暑、日照不足、冷夏など、天候不順にも きわめて効果的です。

特徴

- チッ素成分のすべてが超高級品のアミノ酸を使用しています。
- 吸収が早く、極めて効率よく生育肥大に利用できる為、超速効性です。
- 肥料残りが起きにくく、花ぐされが出にくい。
- 遮光ネット使用による生育停滞を補い、生育を促進する。
- 葉面散布・灌水、どちらの方法でも使えます。

生育に現れる効果

- 鮮やかな緑の大葉・太い幹となる。
- 生育・肥大がきわめて早い。
- 花弁の色ツヤが良く、花の色が鮮明になる。
- 花弁の伸びが良く花の肥大に効果的です。

こんな時にこんな使い方

サシ芽～開花期まで、全期間に使用でき、葉面散布・灌水 どちらでも使用できます。

葉面散布

- 500～1000倍に水で薄めて葉の裏面から噴霧器で散布します。(施肥間隔は適宜)
- ※ 高温時は800～1000倍

灌水

- 500～1000倍に水で薄めて、4～5日間隔使用。

1. サシ芽……………発根が始まったら、1000倍で灌水。さらに1000倍で適宜使用。
2. 福助ダルマ……………500～1000倍で5～6日間隔で灌水または、葉面散布で使用。
3. 生育遅れの挽回
及び追い込み……………500倍で灌水又は葉面散布で適宜使用。
4. 花肥……………1000～2000倍で適宜灌水で使用。
5. 低い枝を伸ばす……………500倍で2～3日間隔で3～4回。

灌水
葉面散布

アミノP.K

花の着色・肥大に効果的

- チッ素成分の50%以上をアミノ酸で取得した液状リン酸肥料です。
- 含有するリン酸はアントシアニン（赤～紫系色素）やキサントフィル（黄色系色素）の生成量を高め花の色を濃くします。

- 幼苗期～育苗期の生長力旺盛な苗つくりには効果的です。根張りの良いガッチリ苗つくりができます。
- 花弁を伸ばし、花の色ツヤを良くする、花弁の組みがよくなる。

使い方

- 育苗期……………500～1000倍に水でうすめて5～7日間隔を目安にお使い下さい。
 - 着蕾～破蕾期……………500～1000倍で適宜お使い下さい。
 - 開花期……………1000～1500倍で適宜お使い下さい。
 - 追い込み……………500～1000倍で1～2日間隔で5～6回お使い下さい。
- ※チッ素ひかえめの生長期用としても使えます。

【注】知っておきたいこと

同じように“アミノ酸配合”と表示されていても[・][・][・][・][・]の為に配合した液肥と、アミノ酸の効果求めて本気で配合した液肥とではその結果は全くちがいます。

ココに惑わされると化学肥料の結果しかでない。



500g入

チッ素-リン酸-カリ
成分 3 - 7 - 2

灌水
葉面散布

アミノ液肥555 定植後の生育用 日照不足・天候不順時にも効果的



1.1kg入
チッ素-リン酸-カリ
成分 5 - 5 - 5

- 動物性アミノ酸を多量(成分比で52%以上)に配合した最高級のアミノ酸液肥です。
- 配合されたアミノ酸は、根から植物体内に取り込み、直接タンパク合成に使い、生育・肥大に使われる為、きわめて効率よく利用でき、生育が早まります。
- 鮮やかな緑の大葉、太い幹となり、若々しい充実した木つくりができます。
- 土中の微生物の活動を活発にし、生きた土に変え、根の活力向上、体質強化に効果的に働きます。

使い方

- ・定植後の生長期 … 500~1000倍に水でうすめて5~7日間隔を目安にお使い下さい。葉面散布の場合は適宜お使い下さい。
- ・追い込み・及び草勢回復 … 500~1000倍に水でうすめ2~3日間隔で状況に応じて2~5回使用して下さい。葉面散布の場合は適宜お使い下さい。

お買い得!



1.1Kg入
チッ素-リン酸-カリ
成分 2 - 8 - 8



1.1Kg入
チッ素-リン酸-カリ
成分 6 - 6 - 6

低価格でも
良く効く

灌水

育生有機 … 生長期用

花有機 … 育苗期及び開花期用

- 主原料に動物性有機を使用し、活性化したアミノ酸・ビタミン・ミネラル・植物ホルモン等々、有機質特有の栄養分を含んでいます。
- 有機特有の栄養分は発根を促進し、根の活力を高め、肥料の吸収を活発にし、旺盛な生育を促します。また、植物の体内酵素を活発にし、代謝機能を高め健全な生育を助成します。

花有機の特徴

- サン芽の鉢上~定植まで 着蕾~開花期にお使い下さい。
- 発根を促進し、生長力の強いガッチリ苗つりに効果的です。
- 蕾の肥大、花色の向上、花の肥大に効果的です。

使い方 灌水にて使用

- ・育苗期…1000倍~1500倍で5~7日間隔
- ・蕾の肥大期…500倍~1000倍で適宜使用
- ・花肥…1000倍~1500倍で適宜使用

育生有機の特徴

- 定植後から着蕾までを目安にお使い下さい。
- 鮮やかな緑の大葉・太い幹となります。
- 根の活力が高まり、肥料の吸収がよくなり、イキイキと力強い生育をします。

使い方 灌水にて使用

- ・500~1000倍で5~7日間隔
- (注) うすめ倍率及び施肥間隔は目安です。

(注) 「苗を育てる肥料」は花有機と同等品です。
「葉と幹を育てる肥料」は育生有機と同等品です。

暑さ対策にも効果的!!

水・肥料の吸収が高まり
生育が早まる!!



ときたら

透水源

通気性が高まり根張りがよくなる

透水源は水の撥水性を抑え浸透性を高め鉢土全体に水を拡散させる
「名人の水掛け」が簡単にできる画期的資材です。

特徴及び効果 … 液肥・活力剤と混合使用がおすすめ

- 鉢土内に均一に水をしみ込ませ「古い空気を新しい空気に入れ替え」ます。
- 酸欠が起きない為、根の働きが強く、肥料や水の吸収が高まり、生育が良くなります。
- 鉢土全体に均一に水がしみ込む為、「水みち」ができない。その為「ドブ漬」が不用となる。
- 有益微生物の増殖や働きが活発になり、団粒構造の形成を促進し、通気性及び排水性など土の物理性を改善します。
- 腐葉土の積み込みや赤玉土の改良など土つくりの水のしみ込みが良く作業性が向上します。
- 消毒液をうすめる時使用すると消毒液のしみ込みがよくなり、すみずみまでまわりやすくなります。



サシ穂の水上げ
「あつしらず」との
混合使用がおすすめ



450g入

使い方

水にうすめてお使い下さい。

1. 水掛け ………………3000~5000倍(水掛けの都度)
2. 液肥をうすめる時 ………………3000~5000倍
3. 消毒液をうすめる時 ………………3000~5000倍
4. 腐葉土積み込みや赤玉土の改良など土つくり ………………2000~3000倍
5. サシ穂や切花の水上げ ………………2000~3000倍

※透水源を混入することで液肥等他資材の効きめが向上するなど広範囲にお役にたちます。

活力剤

病害軽減 害虫被害軽減



1kg入

真面目にお使いいただくと
キクスイカミキリによる被害
うどんこ、白サビなど、発病
はほとんど見られません。

キクスイカミキリによる被害



使った場合ほとんど見られない

土のパワーアップで生育促進



1.1kg入

元気に専科

体質強化、生育促進、減農薬栽培用活力剤

- 元気に専科は光合成を高め体質を強化し、生長力を高めます。
- 病害虫の被害を受けにくくし、減農薬をめざした革新的な活力剤です。

特徴

- 主成分は、鉄・シリカ・マグネシウム・竹酢・トレハロースを配合した「植物に」「人に」「自然に」やさしい活力剤です。
- 配合した鉄分は葉緑素の生成を高め、日照不足による光合成の低下を改善します。また夏の遮光ネット使用による光合成の低下を改善し、肥料残りを軽減します。
- 配合したシリカは茎葉の表面を丈夫にし病原菌の侵入を防ぎ、被害を軽減し、減農薬栽培に効果的です。
- 竹酢液は激辛トウガラシ・ニンニクなど虫のきらいな成分を多量に配合してあります。
- トレハロースは保湿性を高め、猛暑による萎れを軽減します。また冬の乾燥も軽減し、根の活力を維持し、冬至芽の発生をよくします。

生育に現れる効果

- 白サビ・うどんこなど病原菌の被害を受けにくくなる。
- 害虫の被害が軽減される。
- 光合成が高まり生育が早まる。
- チッ素過剰になりにくく、肥料残りが起きにくい。
- 暑さ寒さ乾燥など、環境変化を受けにくくなる。

使い方

- ・ 500～1000倍に水でうすめてお使い下さい。
- ・ 灌水・葉面散布、どちらでも使えます。
- ・ 7～10日間隔でお使い下さい。
- ・ 液体肥料との混合使用できます。

※詳しくは使い方をご参照ください。

土に活(つちにかつ)

土を元気にし、根の働きをよくする活力剤

土中微生物の栄養源となり、働きや増殖を活発にし
通気性や排水性など土の物理性を改善する。
根の活力を高め、根勢を強化し、発根力を高める。
根いたみを改善するなど効果的に働きます。

特徴

- 主原料は緑藻類・大豆・麦芽など有機材料を使用し極超微粒子に精製した有機活力剤です。
- 成分はアミノ酸・ビタミン・βカロチン・クロロフィル・生長ホルモン等々です。短時間で効率よく吸収し、代謝機能を活発にし体質を強化し、生長を早めます。
- 培養土のリフレッシュをし、水のしみ込みをよくし排水性を高めます。適正な肥料濃度に改善し、肥料の効きめを良くします。

生育に現れる効果

- 土中微生物の働きを活発にし土のパワーアップをします。
- 根の活力を高め水や肥料の吸収を良くします。
- 通気性・排水性など土の物理性を改善します。

使い方

灌水専用・葉面散布はできません。

- ・ 育苗期から開花期まで全栽培期間で使えます。
- ・ 500～1000倍に水でうすめて7～10日間隔でお使い下さい。
- ・ 根いたみの発生や根勢が低下した場合は500倍で2～3日間隔で2～3回お使い下さい。

肥料調整剤

… 肥料抜き、チッ素抜き



チッ素過剰の予防に
定期的に与える



リン酸・カリ・マグネシウム・カルシウムの肥料

1kg入
チッ素-リン酸-カリ-Mg
成分 0 - 12 - 10 - 2



チッ素が消化できなく残ってしまった花

PK+M (ピーケーマグ) 発酵してある為、極めて効率よく利用される

葉色が異常に濃くなった。葉のフチが波打ってきた。巻きぎみになった。

などはチッ素を過剰に吸い込んだ状態です。

秋の肥料調整、追い込み後のチッ素の消化。また生長期にチッ素を吸い過ぎた場合に健全生育に戻す為の肥料調整剤です。(チッ素抜き肥料抜きなどと言われています)

特徴

- 特殊微生物で発酵し、土に吸着されにくく、きわめて吸収しやすく、効果の高い肥料調整剤です。
- 主成分はリン酸・カリ・カルシウム・マグネシウム・等活性化された成分です。
- 秋の肥料調整においては、過剰なチッ素分を強力に消化させ、開花期に円滑に移行させます。
- 生長期に過剰に吸い過ぎたチッ素分はすみやかに消化させ、健全生長を促します。

生育に現れる効果

- 過剰に吸い過ぎたチッ素分をすみやかに消化させ健全生長を促します。
- 徒長を防止し茎葉の充実を促します。
- 花ぐされや花のシミがでにくく、花の肥大を促します。
- 病害虫に対する抵抗性を高め被害を軽減します。

こんな時にこんな使い方

● 1回の使用量

- 5号鉢 …… 5グラム
- 7号鉢 …… 5～10グラム
- 9号鉢 …… 10～15グラム

※ 重度のチッ素過剰の場合はエストールで肥料除去後にお使い下さい。

- 秋の肥料調整 9月中旬～下旬に2～3回使用。
- 生長期(8月下旬まで)において葉色が異常に濃くなった。葉のフチが波打ったり、巻いてきたとき。
- 生長期(9月上旬まで)(チッ素過剰の予防)に10日～2週間に1回定期的に与える。

※ 詳しくは使い方をご参照ください。

培養土の

肥料除去剤

培養土に残った肥料を
瞬時に除去する!!



1kg入



チッ素過多の葉っぱ

エストール

過剰チッ素を除去し、生育促進

葉色が異常に濃くなる。葉が巻き込んできたなどの症状は肥料を与え過ぎ、土に肥料がたまった状態です。このままでは、根ぐされや生育不良が起きてしまいます。

また開花期まで続ければ、花ぐされ、花の乱れ、花が大きくならないなどの問題が発生します。

すみやかに肥料濃度を下げ適正にするのがエストールです。

特徴及び効果

- 培養土に過剰にたまったチッ素分をすみやかに除去し、肥料濃度を下げ適正に保ち、健全な生育を促します。
- 肥料は土と電氣的に結びついて保持されています。この結合を瞬時に切り離し鉢外に流し落とします。(陽イオンの除去)
- 水のしみ込みも良くなり鉢土全体に均一に拡散ようになります。また排水や通気性など物理性が改善され根の働きや発根力が高まり肥料の吸収がよくなります。

※ 肥料除去後は必ずPK+M(ピーケーマグ)を施して下さい。

こんな時にこんな使い方

- 500倍に水でうすめ、鉢底から流れ出るまでタツプリと掛け切る。さらに引き続き洗い流すようにタツプリと水を掛けます。
- 葉色が異常に濃くなり、葉を巻き込んだりと明らかなチッ素過剰と思われる時(肥料を与え過ぎ：根いたみ)
- 根ぐされが出た時
定植後、肥料過多にならないよう、2週間を目安に定期的に使用する。

※ 詳しくは使い方をご参照ください。



ガンコな汚れもよく落ちる



ハイテク資材



1kg入 10%増量中



厳しい暑さでもこれだけ育つ!!

色ボケ防止に効果的

最後は色の差で優秀花!



500g入

スプレー菊は
花の色が勝負
おためし下さい。

育苗期～開花期まで極めて高い効果が得られます。

かがやき

肥料の効きめ倍増 植物活性剤

肥料の吸収及び消化を高め、暑さ、寒さ、乾燥など、ストレスの緩和、病害・虫害などの抵抗性を高め、体質の強化及び免疫力の向上と健全生育を促す機能性植物活性剤です。

特徴

- 肥料の吸収や利用率が高まり、生育促進に極めて効果的です。
- 暑さ、寒さ、乾燥など環境ストレスを緩和したり、耐病害、害虫などへの免疫力を高め、体質の強化と活性化を促して、健全かつ旺盛な生育をします。
- 光合成を高め、栄養分や根から吸収した肥料分の転流を早め、旺盛な生育を促します。

生育に現れる効果

- 光合成が高まり、生育が早まり充実した木づくりとなります。
- チッ素過剰になりにくく、肥料残りが起きにくい。
- うすめの葉色で伸び伸びとした葉っぱとなります。
- 花卉の伸びがよく、花姿がよくなります。

使い方

- ・ 500～1000倍に水でうすめ7～10日間隔で生育全期間で使用します。
- ・ 液肥を使用する場合は、同じ倍率で混合使用します。
- ・ 灌水又は、葉面散布で使用できます。

※ 葉面散布の可能な液肥と混合する場合は葉面散布、又は灌水で使用できます。灌水専用の液肥と混合する場合は灌水で使用して下さい。

みらい・アミノPK・アミノ液肥555 など、他の肥料と混合使用することで最高の結果が得られます。

こくなくる

花の色が濃くなる・色ボケ防止に効果的

- 特殊細菌類の栄養分を原料とした、開花期用の栄養剤です。
- 成分はカロチノイド色素、細菌性葉緑素、アミノ酸、核酸、ビタミン、ミネラル等々です。
- 特に赤系の花の発色が良く、白系の花は濁りのない鮮明な白色となります。

色ボケしやすいピンク系の花は鮮明な発色となります。また、花卉のツヤがよくなり、花の気品が高まります。

- 花ぐされ花のシミなどの予防や花の日持ちの向上にも優れた効果があります。

使い方

- ・ 9月中旬から10月中旬に1000倍で4～5回使用します。
- ※アミノP・K、又はみらいと併用するとより効果的です。

生育に現れる効果

- 赤・黄などの花色が濃くなります。
- 花の日持ちがよくなります。
- ピンクなど、淡い色の花は色ボケ防止に効果的
- 白色の花は花卉のツヤが良くなります。

テクニカルシリーズ

超速効性
肥料
調整剤



600g入



1000倍で灌水
チッ素が消化され葉が立ってくるのが
確認できる。

根勢強化で生育促進

根いたみの
回復に
抜群の効果



500g入

天然ミネラル使用による、
植物体内酵素の活性化は
多方面にわたり、優れた
効果をもたらします。

P.グリーン

超速効液・高肥効・液状リン酸肥料

チッ素過剰症の短期解消及び体質改善により
リン酸の効きめを高める、肥料調整剤としても高い効果が得られます。

特徴

- 特殊製法により、リン酸・カリ・鉄・銅などミネラルを合理的に配合した高肥効、超速効性の液状リン酸肥料です。
- 秋の肥料調整及び生長期の「葉が黒くなる」「葉がタレ下がる」などのチッ素過剰症の予防と短期解消に効果的です。
- サシ芽の鉢上げ直前の灌水又はドブ漬け使用によりリン酸吸収力の強い体質に改善し、チッ素の吸収を高め肥料残りを出にくくする。
- 芽先・根先・花芽など生長点の細胞を活性化し、旺盛な生育を促す。

成分 = リン酸:23% カリ:7% その他、鉄・銅・マンガン・亜鉛等、微量元素

こんな時にこんな使い方

- サシ芽の鉢上げ直前600~800倍でドブ漬け又はタツプリ灌水
- 生長期のチッ素過剰の解消800倍で灌水又は葉面散布
- 秋の肥料調整500~600倍で灌水又は800倍で葉面散布
- 花芽分化促進500~600倍で灌水又は800倍で葉面散布
- 徒長防止500~600倍で灌水・葉面散布
又は800倍で灌水・葉面散布

サシ芽の鉢上げ直前のドブ漬けは、後々の生育がよくなるおすすめの使い方です。

天然ミネラル

根いたみ・根ぐされ予防及び回復に

根勢強化で暑さに負けない根づくりとなる。

特徴

- 成分は岩石から特殊抽出したカルシウム・鉄・亜鉛・モリブデン・マンガン・銅など40数種類の天然ミネラルです。
- 天然ミネラルは植物の芽先・根・花芽など生長点の細胞分裂を活発にし、生育・肥大を旺盛にします。
- 根に吸われ培養土の消耗したミネラル分を補給することで植物体内酵素が充実し、発根や生育が非常に良くなります。
- サシ芽後に灌水使用することで体内酵素の活性化により発根が早くなり充実した根づくりとなります。

生育に現れる効果

- 発根が早まり根張りが向上する。
- 毛細根の発達が良くなる。
- 芽先・花芽の肥大が早まる。
- 体内酵素の活性化により生育が早まる。

使い方

- 根勢強化・活力向上で
暑さ対策 800倍~1000倍で7~10日毎に灌水又は葉面散布。
- サシ芽直後の水掛け及び
鉢上げ直後の水掛け 1000倍でタツプリと掛ける。
- 根いたみ回復 1000倍で2~3日間隔で3~5回灌水使用

究極の
暑さ対策!

使えばこうなる!!

高温ストレス緩和剤

あつさしらず



180cc

植物は厳しい暑さに遭遇すると高温による“熱ストレス”を受けると、根から吸ったチッ素やアミノ酸のタンパク合成が阻害され、生長がいちじるしく衰えてしまいます。

タンパクは、植物の組織・構造・生命を維持し生長を促す成分である為です。これが“高温ストレス”による障害です。

この障害を緩和、または取り除くことで、菊（植物）本来の生長力を取り戻すことができます。

生育の差歴然
暑さに勝つ!

早めの使用が効果絶大!!

暑くなってからでは遅すぎる



サシ芽の水上げに ↓ 使用し、2週間毎に使用

よく見ればこんなにちがう



乾燥にも強く、しおれにくい



※ 8号鉢 1本立ての肥料試験中の一部です。

土と肥料は同じ管理です。



あつさしらず使用 未使用

8月5日鉢上げ 9月10日撮影

植物は歴史的に見て、地球の高温期に現れた為に、潜在的に高温に耐えられる性格を有しています。この潜在的能力を呼び戻すことが、暑さ対策の決め手となります。

— お気軽にお電話下さい。液肥 1本より全国発送承ります —

お申し込み・お問い合わせ…

ウチダケミカルコーポレイション

〒300-4204 茨城県つくば市作谷1711-12
Tel.029-869-1777 Fax.029-869-1666

郵便振替 00820-6-96628

本社 静岡県静岡市清水区桜橋町9-13

HPもご覧ください。

<http://uchida-chemical.com>



ウチダケミカルコーポレイション

検索